

医学教育分野別評価  
熊本大学医学部医学科  
年次報告書  
2023 年度



熊本大学  
Kumamoto University

医学教育分野別評価 熊本大学医学部医学科 年次報告書  
2023 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.3  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35

はじめに

本学医学部医学科は 2019 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020 年 2 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

認証評価の実施調査の際にご指摘いただいた多くの改善すべき事項について対応策を検討するため、医学科カリキュラム委員会の附属組織として各項目ごとの分科会を組織した。医学科各講座の教授はすべていずれかの分科会に所属してもらい、医学教育に関するそれぞれの課題について対応策の検討をする仕組みを作成した。さらに 2019 年度の医学教育 FDWS では、学修成果基盤型教育の根幹をなす本学の使命と学修成果を再度見直すことをテーマとし、教職員、学生の参加を得て議論を行った。今後 7 年間、継続的に医学教育の改善を図っていく予定である。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35 を踏まえ、年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35 の転記は省略した。

## 1. 使命と学修成果

熊本大学医学部医学科の使命、学修成果としての「教育成果」、3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）が明示され、それに基づいて教育が行われている。学修成果は、医学教育FDWSでの議論も含め、学生、教職員が参加して策定しており、2016年の使命の策定においても教職員、学生からパブリックコメントを求めている。

今後、使命と教育成果を改定する際には、他の医療職種、患者、公共ならびに地域医療の代表など、より広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが今後の課題と言える。

### 1.1 使命

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・使命は、学生、教員のみならず、学外臨床実習施設、研究センターにも説明や資料配付によって明示している。

##### 改善のための助言

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また2019年11月に教職員、学生参加の上でのFDワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。その後関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップを行い、令和5年2月21日の医学科会議にて改定案は承認された。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料1：熊本大学医学部医学科使命・学修成果

資料2：医学科会議資料（令和5年2月21日）

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また2019年11月に教職員、学生参加の上でのFDワークショップを開催した。これらの検

討を通じて、使命の改定案を作成した。その後関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップを行い、令和5年2月21日の医学科会議にて改定案は承認された。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料2：医学科会議資料（令和5年2月21日）

### 1.2 大学の自立性および学部の自由度

#### 基準的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラムの改訂について、2024年度新入生からを対象とした新カリキュラムを策定すべく、カリキュラム委員会のもと、臨床実習WGと臨床実習前教育WGが組織され、新カリキュラム案策定を行っている。当初2023年度入学生から対象とする新カリキュラムとしていたが、令和4年に医学教育コアカリキュラムの改訂版が公開され、同コアカリの対象が2024年度入学生からとなっていることも考え、2024年度新入生からとしている。WGグループの話し合いは不定期に行われ、適宜カリキュラム委員会にて進捗が報告されている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料3：カリキュラム委員会議事記録

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・「教育医長制度」を設けてカリキュラムに対する教員の意見を述べる機会が保障されている。
- ・学生がカリキュラムに関する意見を述べる機会として「医学科学生代表と医学部長、医学科長と懇談会」、「熊本大学長との懇談会」、「医学科カリキュラム委員会」などが設定されている。

##### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育医長会議は年10回ほど定期的で開催し、各講座への伝達と教員からの意見聴取、あるいは教育カリキュラムについての議論の場となっている。2022年度は9回の教育医長会議が開催され、教員との意見交換が行

われた。

学生がカリキュラムに意見を述べる機会として、カリキュラム委員会、医学教育評価委員会、医学科教育・教務委員会に学生が正式構成員として参加し、意見を述べている。「医学科学生代表と医学部長、医学科長と懇談会」、「熊本大学長との懇談会」は2022年度も実施され、学生より様々な意見が呈された。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料4：教育医長会議議事記録

資料3：カリキュラム委員会議事記録

資料5：教育評価委員会議事記録

資料6：「医学科学生代表と医学部長、懇談会」記録

資料7：「熊本大学長との懇談会」概要メモ

### **1.3 学修成果**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・学生が卒業時に獲得しておくべき能力を「熊本大学医学部医学科教育成果」として明文化し、7つのコア教育成果と合計50の小項目が定められている。
- ・「熊本大学医学部医学科教育成果」は、ホームページ、学生便覧、ガイダンス等を通じて、学生はじめ教職員、臨床実習施設にも周知している。

##### **改善のための示唆**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また2019年11月に教職員、学生参加の上でのFDワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命と学修成果の改定案を作成した。その後関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案のブラッシュアップを行い、令和5年2月21日の医学科会議にて改定案は承認された。

学修成果はホームページ、学生便覧、ガイダンス等にて周知している。2022年度4月のガイダンスは全学年対面式で開催され、そこで使命と学修成果の周知がなされた。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料1：熊本大学医学部医学科使命・学修成果

資料2：医学科会議資料（令和5年2月21日）

資料8：熊本大学医学部医学科ホームページ

資料9：学生便覧（Ⅱ熊本大学医学部医学科教育成果 P3～P5）

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

・医学科の教育成果と、厚生労働省による「臨床研修の到達目標」および「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラムの目標」は関連づけられている。

### 改善のための示唆

・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命と学修成果の改定案を作成した。その後関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案のブラッシュアップを行い、令和 5 年 2 月 21 日の医学科会議にて改定案は承認された。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 1：熊本大学医学部医学科使命・学修成果

資料 2：医学科会議資料（令和 5 年 2 月 21 日）

## 1.4 使命と成果策定への参画

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果の策定には、医学教育 FDWS での議論を含め、学生、教職員が参加して策定している
- ・2016 年に使命を策定する際にも教職員、学生からパブリックコメントを求めている。

#### 改善のための助言

・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命と学修成果の改定案を作成した。その教員、学生も含めた関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案のブラッシュアップを行い、令和 5 年 2 月 21 日の医学科会議にて改定案は承認された。

### 改善状況を示す根拠資料

資料1：熊本大学医学部医学科学使命・学修成果

資料2：医学科会議資料（令和5年2月21日）

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・今後、使命と教育成果を改定する際には、他の医療職種、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また2019年11月に教職員、学生参加の上でのFDワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。その後関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップを行い、令和5年2月21日の医学科会議にて改定案は承認された。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料10：パブリックコメント依頼文書

資料11：卒後3年目アンケート調査結果

## 2. 教育プログラム

3年次における、約3か月の「基礎演習」や、「プレ柴三郎コース」、「柴三郎コース」を設けて研究マインドを涵養していることは評価できる。1年次から3年次にかけての早期臨床体験実習と3週間の「地域医療実習」の必修科で地域に根ざした教育を行っていることは評価できる。

行動科学のカリキュラム全体を統轄する部門もしくは教員を定め、より体系的にこれを学ぶ仕組みを構築すべきである。診療参加型臨床実習をさらに充実すべきである。関連する科学・学問領域および課題の水平的統合、および医学基礎、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに進めることが望まれる。カリキュラム委員会の構成委員に、学生の代表を正式に含めるべきである。卒業生が将来働く環境から系統的に情報を得て分析し、教育プログラムの改良に活かす仕組みを構築することが今後の課題といえる。

### 2.1 プログラムの構成

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- (1) アクティブラーニングをさらに充実させて、学生の自己学習を促進すべきである。
- (2) 「授業計画書」にカリキュラム全体像と各授業科目との関連性を明示し、学生がその学年での学修の意義を理解できるようにすべきである。
- (3) カリキュラムポリシーにおいて評価方法にも言及すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

##### (1) アクティブラーニングの充実について

カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織し、その中で、教育方略も含むカリキュラム全般について検討する「カリキュラム分科会」を設置した。カリキュラム分科会において、アクティブラーニングの推進についても検討している。熊本大学でのIoT環境での講義・実習は、熊本大学内に限定されているインターネット環境「熊本大学ポータル」に搭載されているeラーニングシステムであるmoodleを主なプラットフォームとして行われる。moodleは本学の教職員や学生などあらかじめ登録された者のみ利用可能で、動画やPDFなどの講義資料をはじめ様々な電子ファイルを掲載でき、登録されたものが自由に閲覧できる。さらに小テストやアンケート、課題の提示と提出などがmoodle上で可能である。さらに新型コロナウイルス感染拡大を契機に、熊本大学はインターネットでの会議システムであるZoomと契約し、全教員にアカウントを配付した。また、2021年度は新カリキュラムを策定すべく、カリキュラム委員会のもと、臨床実習WGと臨床実習前教育WGが組織され、新カリキュラム案策定を開始した。その中で、反転講義やアクティブラーニングの推進が検討されている。2022年12月11日に、”能動的学習（アクティブラーニング）と効果的な形成的評価（フィードバック）を学ぼう”をテーマに熊本大学医学教育FDワークショップが開催された。学外講師として、関西医科大学医学教育センター 西尾克己教授をお招きし、“医学教育におけるアクティブラーニング”についてご講演いただいた。また本学の医学教育におけるアク



ティブラーニング実施の実例をご紹介したのち、グループワークとして、アクティブラーニングの講義・実習のスケジュール・シラバスの作成、講義実習の中での効果的な形成的評価、フィードバックの方法についての議論・発表を行った。今後この経験を活かしアクティブラーニングの推進につなげる。

#### (2) 授業計画書について

新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンラインツールの利用拡大の影響もあり、2021年度から冊子体としての授業計画書は発行しないこととなった。moodleの「医学部医学科連絡用」のコースに、使命と学修成果、6年間のカリキュラム全体像、各学年の時間割、シラバスを掲載（バナー掲載含む）している。また4月のガイダンスでは、学修成果やカリキュラム全体像と該当学年の時間割を提示し、6年間の医学教育の中での該当学年の立ち位置を示している。今後も使命と学修成果、6年間のカリキュラム全体像、各学年の時間割、シラバスの提示を継続する。また各学年の4月ガイダンス時に、カリキュラム全体像と該当学年の学修内容との関連を説明していく。

#### (3) カリキュラムポリシーについて

2020年度、熊本大学にて3つのポリシーの改定作業がなされた。医学部医学科のカリキュラムポリシーに「3. 学修成果の評価の方針」として「学修成果の獲得の評価は、筆記試験だけでなく、実技試験や観察評価など様々な方法で行います。その方法については、各開講科目のシラバスにおいて「評価方法・基準」で示します」との記載がなされている。今後も評価方法の妥当性、信頼性については適宜検証を行う。

#### (4) 新カリキュラム改定について

2021年度は新カリキュラムを策定すべく、カリキュラム委員会のもと、臨床実習WGと臨床実習前教育WGが組織され、新カリキュラム案策定を開始した。2022年度は、6月にカリキュラム改定に関するmini-FDを2回開催し、新カリキュラム（臨床実習前教育と臨床実習）について本学教員からの意見を聴取し、WGでの議論に反映させている。さらに2022年度に発表された医学教育モデルコアカリキュラムを新カリキュラムへ反映させる作業も行なっている。新カリキュラムは2024年度新入生から適応する予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

資料3：カリキュラム委員会議事記録

資料22：2022年度熊本大学医学教育FDワークショップ報告書

資料13：ガイダンス資料（教育・教務委員長スライド）

資料14：熊本大学医学部3ポリシー

資料15：mini FD資料

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

生涯教育につながるカリキュラムとして、入学直後の1年次での「医学概論」において医師としての心構えやプロフェッショナリズムについて概説している。さらに3年次の基礎演習や4、5、6年次の臨床実習、特別臨床実習において、ワーク・プレイス・ラーニング（研究施設や病院・診療所等での実務実習）を行っており、実際に自ら研究・診療する手法を学ぶだけでなく自らのロールモデルとなりうる教員や大学院生と接する機会が設けられている。生涯学修につながる学修方法の修得として、チュートリアル実習で Problem Based Learning (PBL) も継続している。2021年度は新カリキュラムを策定すべく、カリキュラム委員会のもと、臨床実習WGと臨床実習前教育WGが組織され、新カリキュラム案策定を開始した。その中で、現在の「医学概論」を拡大し、医学科入学時に生涯学習につながる自己研鑽の重要性と具体的な能動的学習のスキルを学修する科目「医学総論」の構築を検討している。

## 改善状況を示す根拠資料

資料16：シラバス（医学概論）

## 2.2 科学的方法

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1) 3年次における、約3か月の「基礎演習」や、「プレ柴三郎コース」、「柴三郎コース」を設けて研究マインドを涵養していることは評価できる。

#### 改善のための助言

(2) EBMについて体系的な教育を行い、その成果を臨床実習で学生がさらに活用する機会を設けるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

(1) 基礎演習などについて

2021年度基礎演習の学生配属先については、2020年度冬に実施するが、基礎演習での研究室選択において、基礎演習以前にプレ柴三郎コースやそのほかの関連で自主的に研究活動を行っている学生をその研究室に優先的に配置する優先研究室配置制度を施行し、学生と研究室の希望・マッチングに配慮した。新型コロナウイルス感染の影響も縮小した2022年度の基礎演習は、原則研究室での対面実習がなされた。現在検討している新カリキュラムの中でも、基礎演習を継続する予定である。

(2) EBMについて

EBMの応用のため、「Up to Date」、「今日の診療サポート」の大学内の導入を行っている。さらに臨床クラークシップの「地域医療実習」では、「今日の診療サポート」を参照できるiPadの貸し出しを行い、学外実習施設でもEBMを応用できる環境を整えている。また、2021年度より、カリキュラム委員会のもと新しいカリキュラムを策定するWGが議論を開始している。その中で、症候学を学ぶ場においてEBMの応用についても体系的に教育する科目として「医療統計・EBM」の新設を計画している。また臨床実習でのEBMの活用を増加させるため、実際にEBM活用を行っている診療科の活動を紹介周知することを計画していく。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 17：シラバス（基礎演習）

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の講義実習には発生医学研究所、ヒトレトロウイルス学共同研究センター、生命資源研究・支援センター、及び国際先端医学研究機構（IRCMS）も参加しており、世界的研究の一端に参加する機会も設けられている。また 3 年次の基礎演習では約 3 か月間最先端の研究を学生主体的に実施している。配属先には本学医学科講座だけでなく、上記の研究施設への配属も行われている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 17：シラバス（基礎演習）

資料 18：基礎演習実施計画

## 2.3 基礎医学

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学入学試験の理科選択科目で物理、化学を選択した学生の生物学的知識の不足により、1 年次からの基礎医学科目への取り掛かりに支障を来している可能性が指摘されている。その対策として、2023 年度から 1 年次科目「医学生物学」を新設することとした。本科目は、高等学校の生物の教材を利用する。学生を十数グループに分け、グループごとに割り当てられた課題について調べ学修を行い、他の学生グループに教示するというアクティブラーニングの一手法にて実施する予定である。

また、カリキュラムの改訂について、2024 年度新入生からを対象とした新カリキュラムを策定すべく、カリキュラム委員会のもと、臨床実習前教育 WG が組織され、新カリキュラム案策定を開始した。その中で、基礎医学教育についても改訂を進めていく。

#### 改善状況を示す根拠資料

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

・ AI や iPS 細胞を利用した再生医療など、将来的に医療において必要になると予測される事項を授業に取り入れている。

### 改善のための示唆

・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 年生の医学情報処理や最新医学セミナーなどにて AI や iPS 細胞などについての講義を継続している。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 19：シラバス（医学情報処理）

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理と医療法学

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・ なし

#### 改善のための助言

・ 行動科学のカリキュラム全体を統轄する部門もしくは教員を定め、体系的に学ぶ仕組みを構築し、実践すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2018 年度入学生より、1 年次に行動科学 I、4 年次に行動科学 II を履修する。両方の講義は、生命倫理学講座、臨床医学教育研究センターが主体となり、講義を行っている。2020 年度、2021 年度は 1 年次に行動科学 I、4 年次の「医療と社会」にて行動科学の講義を行っている。また 2022 年度より開始となる 4 年次科目「行動科学 II」について、生命倫理学講座および臨床医学教育研究センター教員にて準備を行い、実施した。今後も行動科学 I/II を担当する教員による定期的な会合を行い、カリキュラムの検討を行う。また 2024 年度新入生からを対象とした新カリキュラムを策定している臨床実習前教育 WG の中でも、行動科学 I/II の継続と内容の充実を検討している。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 20：シラバス（行動科学 I、行動科学 II）

## 質的向上のための水準

### 特記すべき点（特色）

・ なし

## 改善のための示唆

・行動科学の体系的な教育を確立し、将来におけるニーズを考慮し、カリキュラムを検討していくことが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2018年度入学生より、1年次に行動科学 I、4年次に行動科学 II を履修する。両方の講義は、生命倫理学講座、臨床医学教育研究センターが主体となり、講義を行っている。2022年度より4年次科目「行動科学 II」が開始となった。生命倫理学講座および臨床医学教育研究センター教員にて準備し、9コマ科目として実施した。今後も行動科学 I/II を担当する教員による定期的な会合を行い、カリキュラムの検討を行う。また2024年度新入生からを対象とした新カリキュラムを策定している臨床実習前教育 WG の中でも、行動科学 I/II の継続と内容の充実を検討している。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 20：シラバス（行動科学 I、行動科学 II）

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1) 4年次からの臨床実習（ローテーション）、5年次の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）、6年次の特別臨床実習（クリニカルインターンシップ）と段階的に臨床責務を増やす体系的な臨床実習を組んでいる。

#### 改善のための助言

(2) 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能を修得できるような診療参加型臨床実習をさらに充実すべきである。

(3) 診療参加型臨床実習において、診療記載教育を強化すべきである。

(4) すべての学生が重要な症候と疾患を十分に経験することを保障すべきである。

(5) 臨床実習ですべての学生が健康増進と予防医学の体験をできる機会を作るべきである。

(6) 診療参加型臨床実習を効果的に行うために、重要な診療科では、原則として1診療科あたり4週間以上を確保すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

### (1) 臨床実習について

2022年度も臨床実習 28 週間、クリニカルクラークシップ 39 週間(自主学習期間 3 週間含む)、クリニカルインターンシップ 6 週間を行っている。

### (2) 診療参加型臨床実習の充実について

カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診

療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。また月1回程度の定期的開催の教育医長会議において、実際の実習の議論・情報共有を継続している。さらに2020年度3月に医学科長の意向により教育教務委員長（診療参加型臨床実習促進分科会委員長、臨床実習学生評価分科会を兼務）、地域医療担当教員、臨床医学教育研究センター教員が参加する「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ（臨床実習WG）」が組織され議論を開始した。その中で、13のEPA（臨床実習で学生を信頼し任せられる役割）を臨床実習で学生に実施させるための仕組み、臨床実習スケジュールの改定により各科共通に学ぶべきスキルから各科固有のスキルへの段階的な学修・実践などについて議論がなされている。2022年度は6月にminiFDを開催し、臨床実習についての各講座からの意見を聴取した。特に臨床実習のスケジュール、各診療科での臨床実習期間についての議論が活発になされている。これらの意見をWGでの議論に反映させ、新しい臨床実習のスケジュール案や医行為についての指針などを策定している。今後も広く臨床実習改定案について意見を求め、ブラッシュアップしていく予定である。

### (3) 診療録記載教育について

2022年度現在、大学病院の電子カルテについて、学生には担当患者の閲覧権限は認められているが入力権限は認められていない。2022年度より、電子カルテと同じ端末上の共有フォルダ内にあるカルテのフォーマットを用いて学生はカルテ記載を行なっている。指導医などが学生記載カルテフォーマットから電子カルテへの転載が可能である。また臨床実習に入る前のプレ臨床実習にて症例シナリオを用いた臨床推論グループワークを行い、シナリオ症例のカルテ記載を実施している。今後診療録記載教育について、学生による医療面接を電子カルテに記載することなどを大学病院とも引き続き検討する。また、臨床実習開始前のカルテ記載教育の充実を検討する。

### (4) 健康増進と予防医学の経験について

現在クリニカルクラークシップの地域医療実習の中で、保健所での実習が実施されている施設もある。今後早期臨床体験実習やクリニカルクラークシップ、多職種連携教育の中で、保健所の活動などを学ぶ機会を増やすよう検討を継続する。

### (5) 重要な診療科について

カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。医学科長の意向により教育・教務委員長（診療参加型臨床実習促進分科会委員長、臨床実習学生評価分科会を兼務）、地域医療担当教員、臨床医学教育研究センター教員が参加する「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ（臨床実習WG）」が組織され議論を行なっている。その中で、内科、外科、産科婦人科、小児科、神経精神科、地域医療の実習期間を連続4週間となるよう、臨床実習スケジュールの変更を検討している。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 23：2022-2023 臨床実習日程

資料 24：2022-2023 特別臨床実習の手引き

資料 12：Moodle「2022-2023 臨床実習」

資料 21：Moodle「2022-2023 特別臨床実習」

資料 4：教育医長会議議事記録

資料 25：プレ臨床実習概要

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1)1年次から3年次にかけての早期臨床体験実習と3週間の「地域医療実習」の必修化で地域に根ざした教育を行っていることは評価できる。

#### 改善のための示唆

(2)教育成果「D. チーム医療と信頼される医療の実践」を臨床実習において獲得するための多職種連携教育の導入が望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

#### (1)早期臨床体験実習について

2022年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、9月の1年次早期臨床体験実習Ⅰでの実地実習は中止となった。その代替として、社会保険施設の利用者をモデルとしたシナリオを用いたグループ学習と、社会保健施設のスタッフによる講義を実施した。一方、2年次早期臨床体験実習Ⅱと3年次の早期臨床体験実習Ⅲは、大学病院および受け入れ医療機関（主にプライマリケアを担うクリニックなど）のご尽力により1週間の実地実習を行うことができた。クリニカルクラークシップでの地域医療実習も次第に実地実習が可能となった。今後も早期臨床体験実習と3週間の「地域医療実習」を継続していく予定である。

#### (2)多職種連携教育について

2022年11月11日に、医学部医学科、保健学科（看護学専攻、放射線専攻、検査医学専攻）、薬学部薬学科の4年次学生合計323名（薬学部大学院生8名含む）を対象に、多職種連携グループワークを行った。テーマを「多職種で対応する救急外来症例」とし、40のグループに分けた学生に夜間の救急外来を受診した患者のシナリオを提示、グループ間で対応を検討する。各職種共同の目線、また独自の目線を駆使して多くの問題点を抽出し、解決に導いていく。その検討結果についてグループごとに発表を行い、その後全会場をZoomで繋ぎ、総括・講演を行った。今後も3学科での多職種連携教育を実施する予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 26：早期臨床体験実習実施関係資料

資料 27：多職種連携教育実施要項

## 2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教養科目、専門基礎科目、専門科目（基礎医学科目、臨床医学科目）、臨床実習と基本的な知識の修得から実践へとステップアップしていくカリキュラムとなっている。また、2021年度より、カリキュラム委員会のもと新しいカリキュラムを策定するWGが議論を開始している。その中で学生がより体系的に医学を学べるよう、カリキュラムの抜本的改革を議論している。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料28：カリキュラムツリー

#### 質的向上の水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための示唆

- (1) 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに進めることが望まれる。
- (2) 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに進めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

##### (1) 水平的統合(2) 垂直的統合について

カリキュラム委員会において、水平統合・垂直統合について検討する。カリキュラム委員会のもと新しいカリキュラムを策定するWGが議論を進めている。その中で2022年に公開された令和4年版の医学教育モデルコアカリキュラムを参照し水平・垂直統合を検討している。例えば、(1)内科総論、外科総論などの総論科目を設定し、内科講座、外科講座が複数参加し実施する、(2)臓器別科目を設定し、内科、外科、病理学、画像診断学などの講座が参加する、(3)国際医療、災害医療、加齢医学などの新設科目を設定し、関連する複数講座により実施する、などである。今後各講座や学生などの意見を求めつつ新カリキュラム案のブラッシュアップを進める。

#### 改善状況を示す根拠資料

## 2.7 プログラム管理

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

なし

#### 改善のための助言

- ・カリキュラム委員会の構成委員に、低学年から高学年までの学生の代表を正式に含めるべきである。



### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2019年12月に教育・教務委員会、カリキュラム委員会、教育評価委員会のそれぞれの委員会細則を改正した。この改正により2020年4月より、カリキュラム委員会の上位期間である教育・教務委員会の委員に3年生の学生が正式委員となった。カリキュラム委員会の学生委員の任期は5年次9月より6年次8月までである。カリキュラム委員会の学生委員の任期は5年次9月より6年次8月までである。さらに2023年4月より、教育・教務委員会に、1年生から6年生まで（3年生は除く）の各1名の学生をオブザーバーとして参加するべく、規則の改正を行った。今後カリキュラム委員会、教育評価委員会での低学年の参加を検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料29：カリキュラム委員会細則

資料30：教育・教務委員会細則

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

なし

### 改善のための示唆

- (1)カリキュラム委員会での議論の詳細を議事録などで確実に記録し、教育カリキュラムの改善に活かすことが望まれる。
- (2)カリキュラム委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含めることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

#### (1) 議事録について

カリキュラム委員会、教育医長会議の議事録、議事要録を作成し保管している。各委員会の議事録の作成保管を継続する。

#### (2) 教育の関係者の参加について

教育・教務委員会にて2019年12月教育・教務委員会、カリキュラム委員会、教育評価委員会のそれぞれの委員会細則を改正した。この改正により2020年4月より、カリキュラム委員会の構成員に「医学教育に精通している医学部医学科以外の者」を含めることが可能となった。今後カリキュラム委員に教員と学生以外の教育の関係者の加入する構成員を検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料3：カリキュラム委員会議事記録

資料4：教育医長会議議事記録

資料29：カリキュラム委員会細則

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

## **基本的水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための助言**

- ・卒前教育と卒後教育・臨床実践の間の連携をより緊密にとるべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

医学教育を評価する医学教育評価委員会にも熊本大学病院総合臨床研修センター教員が委員として加わっている。また、2021年度よりカリキュラム委員会のもとに新しい臨床実習について議論する臨床実習WGに、総合臨床研修センターの教員に参加してもらい、卒後教育の観点から卒前の新しい臨床実習に意見をいただいている。今後も熊本大学医学部医学科及び臨床医学教育研究センターと、熊本大学病院総合臨床研修センターの連携を図る。

### **改善状況を示す根拠資料**

資料 31：医学教育評価委員会名簿

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- (1) 卒業生が将来働く環境から系統的に情報を得て分析し、教育プログラムの改良に活かす仕組みを構築することが望まれる。
- (2) カリキュラム委員会を通じて地域や社会の意見を取り入れ、教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

#### (1) 卒業生からの意見聴取について

医学教育評価委員会に学外実習施設の代表が委員として参加し、情報を得ている。またカリキュラム委員会の附属組織である「IR 分科会」に卒後教育に関わる熊本大学病院総合臨床研修センター教員が参加し、IR 担当部署に対して助言している。2021年度は、卒後3年目の本学出身後期修練医を対象にアンケート調査を実施し、初期研修終了時点という視点から本学の卒前教育に対する意見を聴取した。

#### (2) 地域や社会からの意見聴取

医学教育評価委員会には熊本県地域医療を担当する委員が参加している。熊本県の医療問題を踏まえた本学へのフィードバックをいただいている。また2021年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大が大きな社会問題となった。本学を含む医育機関において、感染症管理の知識技能を有する医療人の輩出は社会からの要請である。熊本大学の感染症医療人育成事業計画は文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され、

2021年度は感染症人材育成の観点からのカリキュラムを実施した。今後もカリキュラム委員会において、地域や社会の意見をいただく機会を設け、社会の情勢を踏まえたカリキュラムの改良を試みる。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料 31：医学教育評価委員会名簿

資料 11：卒後3年目アンケート調査結果

### 3. 学生の評価

#### 概評

「早期臨床体験実習」では、ログブック、レポート、振り返り、多職種評価などを用いた包括的な評価が行われている。また、学士試験の分割や統合卒業試験の導入などにより、試験日程が過密にならないように配慮している。

すべての科目において、マイルストーンで設定した教育成果との対応を考慮した評価をすべきである。知識、技能、態度をバランスよく評価する仕組みを導入して、学生に開示すべきである。また、臨床実習におけるログブックなどの記録をさらに充実させ、すべての診療科において、確実に教育成果に基づく評価を実践すべきである。評価の信頼性・妥当性を検証するとともに、外部評価者の活用を図ることが望まれる。学生の成長の過程をモニタして到達度を把握し、卒業時まで確実に教育成果に到達できる仕組みを構築することが今後の課題と言える。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

(1) 「早期臨床体験実習」ではログブック、レポート、振り返り、多職種評価などを用いた包括的な評価が行われている。

##### 改善のための助言

(2) 臨床実習前教育では、知識に関する評価にウエイトが置かれている。知識、技能、態度をバランスよく評価する仕組みを導入して、学生に開示すべきである。

(3) 臨床実習におけるログブックなどの記録をさらに充実させて、すべての診療科において、確実に教育成果に基づく評価を実践すべきである。

(4) 外部の専門家による評価の吟味を組織的に実施すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

##### (1) 早期臨床体験実習での評価について

2022年度は新型コロナウイルス感染拡大により早期臨床体験実習 I において実地実習が実施できなかった。その代替として、社会保険施設の利用者をモデルとしたシナリオを用いたグループ学習と、社会保健施設のスタッフによる講義を実施した。学生評価はグループワークの観察評価と発表会での教員と学生によるピア評価を実施した。早期臨床体験実習 II と III は実地実習を実施できた。早期臨床体験実習 II では指導者による観察評価（多職種）とレポートの評価、早期臨床体験実習 III ではログブックによる振り返りと実習先指導者による観察評価にて形成的、総括的評価を行っている。今後早期臨床体験実習での評価について信頼性、妥当性の検討を行う。

##### (2) 知識、技能、態度の評価のバランスについて

カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。今後学生評価分科会にて知識技能態度の評価を検討する。具体的には、シラバスチェックや各科目の教育担当者に対するアンケートを通

して、知識、技能および態度のバランスなど、実施されている評価方法の実態とくに問題点を抽出する。また、他の医学系大学における評価のバランス・仕組みについて情報を収集する。

### (3) ログブックについて

現在ログブックは32の診療科で導入している。また教育医長会議にてログブックの導入について推奨している。

### (4) 外部の専門家の吟味について

医学教育評価委員会には、医学科以外の専門家に参加してもらい、学生評価を含む本学の医学教育について意見を頂いている。現在統合卒業試験は、各講座から試験問題を提出したあと、教育・教務委員（統合卒業試験担当）と臨床医学教育研究センター職員によるチェックがされている。カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。学生評価分科会は、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に外部の専門家の活用について検討を行う。具体的には本学教養など外部の専門家を招聘し、第三者性・中立性を担保した評価の吟味、特に統合卒業試験問題、各講座の学士試験問題を医学科以外の教育専門家により吟味して頂くシステムの構築を検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 24：2022-2023 年度特別臨床実習の手引き

資料 32：医学教育評価委員会細則

資料 33：統合卒業試験実施要項

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

なし

## 改善のための示唆

- (1) 評価の信頼性・妥当性を検証することが望まれる。
- (2) 外部評価者の活用を図ることが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

### (1) 評価の検証について

医学部医学科 IR 部門にて、統合卒業試験の信頼性、妥当性の検討を行った。2022 年度の統合卒業試験の cronbach  $\alpha$  係数は 0.94 であり信頼性を認めた。また、CBT、医師国家試験と有意な相関がみられ、妥当性も認められたと考えられる。また各講座での学士試験について、他の講座との相関などを検討している。各講座の学士試験の結果を IR にて収集している。各科目の試験について信頼性、妥当性の検証をする仕組みを考慮する。各科目間の相関、また CBT や国家試験との相関も検討する。各講座の学士試験について、採点結果の詳細（問題 1 つ 1 つの結果など）を収集する仕組みを構築し信頼性の検討を行う。また長期的には、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に、信頼性と妥当性を検証できる評価の実施について行動計画を立案する。

## (2) 外部評価者の活用について

共用試験では、他大学の外部評価者による評価を行っている。また、早期臨床体験実習や基礎演習、臨床実習にて本学以外の医療施設や研究施設にて実習を行った場合、学外実習施設の職員による評価を行っている。統合卒業試験は臨床系診療科より問題を提出してもらい、それを統合して出題しているが、それらの問題は教育・教務委員（統合卒業試験担当）と臨床医学教育研究センター職員によりチェックされている。カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。学生評価分科会は、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に外部評価者の活用について検討を開始する。当面は、各講座の学士試験を他の講座の教員によって吟味する機会を設けることを検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 33：統合卒業試験実施要項

資料 34：統合卒業試験の解析

資料 35：卒業生の6年間の試験結果の解析

資料 36：早期臨床体験実習評価表

資料 37：2022-2023 臨床実習手引き

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1) 学士試験の実施時期の分割や統合卒業試験の導入などにより、試験日程が過密にならないように配慮している。

#### 改善のための助言

(2) すべての科目において、マイルストーンで設定した教育成果との対応を考慮した評価を実施すべきである。

(3) 学生の成長過程をモニタして到達度を把握し、その情報を教員・学生で共有して、卒業時までには確実に教育成果に到達できる仕組みを構築すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

##### (1) 試験日程について

カリキュラム委員会出席の学生委員からの意見、学長・医学部長と学生の懇談会での意見を踏まえつつ毎年度調整している。また学年代表を通じての要望なども踏まえつつ日程調整している。今後も、各年度のカリキュラム作成過程において、カリキュラム委員会や教育・教務委員会に出席している学生委員の意見も踏まえつつ、試験日程の調整を行う。

##### (2) 学修成果との対応について

本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織し、検討を開始した。教職員・学生参加の上でのFDワークショップ、関係各所へのパブリックコ

メントを収集し改定案のブラッシュアップを行い、令和5年2月21日の医学科会議にて改定案は承認された。今後この学修成果の獲得のためのマイルストーンを検討し直し、学修成果の獲得を各科目にて評価出来るように検討する。カリキュラム委員会等において、変更した学修成果の獲得のためのマイルストーンを検討して設定する。具体的には、教育成果は担当分科会によって現在見直されており、その設定後に学生評価分科会は学修成果、教育方法そして評価方法の対応・整合性について評価を開始する。

### (3) 学生の成長過程のモニタについて

医学部医学科 IR 部門にて、各学生の1年次から6年次までの学士試験の結果を集積している。2020年度より、4年次のCBT、5年次の達成度試験において学修成績が振るわない学生については、担当教員を割り付け学修の援助を行うシステムを開始した。学生個人個人の1年次からの成績推移を学生と教員で共有する仕組みを構築する。1年次より学修習得が遅れて始めた学生について個別に指導教員を割り付けるなど、救済の仕組みを検討する。そして、これらのシステムの構築後に学生評価分科会は各科目の学生評価方法を評価する。

## 改善状況を示す根拠資料

資料3：カリキュラム委員会議事記録

資料6：「医学科学生代表と医学部長、懇談会」記録

資料38：学生の成績集積

資料39：TEAM100 関連資料

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

・形成的評価を体系的に実施し、適切なタイミングでフィードバックして学生の学修を促進する仕組みを構築することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」を設置し議論を行っている。2020年度から2022年度にかけて、新型コロナウイルス感染拡大により遠隔講義、遠隔実習が増加したが、それにより課題の提出とそれに対するフィードバックがなされるようになった。これは特に臨床実習でみられ、学生からも好評価を得ている。医学科教員がmoodleなどのIoT教育資材の利用に長けてきていることは今後のフィードバックにも有用と考える。さらに学生へのフィードバックを充実させるために、他の医学系大学における形成的評価について情報を収集する。その後、体系的な形成的評価について議論し、各講座に助言や提案を行う。

## 改善状況を示す根拠資料

## 4. 学生

### 概要

学生委員長が学生から相談を受けるための専用携帯電話を常時所持して、きめ細かな対応を行っていることは評価できる。保健センターによる支援に加えて、臨床医学教育研究センター教員の臨床心理士が支援を行っている。熊本地震を機に組織されたボランティア活動団体が、大学の支援を得て活動を継続していることは評価できる。

教育プログラムの策定および管理を行う組織に、学生の代表が正式な構成員として参加して適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。学修上の問題を抱えている学生に対して、早い段階で支援できるよう、出席状況だけでなく、学修進度に関するさまざまな情報を把握してカウンセリングに活用することが今後の課題といえる。

### 4.1 入学方針と入学選抜

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アドミッションポリシーを踏まえ、入学試験を実施している。2022年度入学生入学試験より、未来医療・先進医療のリーダーとなる医師、リサーチマインドに富む臨床医（Physician Scientist）を育成し、国内外の医学研究・医療を牽引する人材を輩出することを目的に、「熊本みらい医療枠」入試を導入した。2023年度入試でも同様の入試を実施している。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 40：2023年度入学者選抜要項

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

・地域や社会の健康上の要請に応じて関連する社会的・専門的情報に基づいて、アドミッションポリシーを定期的に見直す仕組みを導入することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アドミッションポリシーは、社会的要請などにより、入試委員会にて改訂などが検討され、医学科会議にて承



認される仕組みである。2021 年度には、「熊本みらい医療枠」を 2022 年度入学試験より導入することを検討した。今後も熊本県での医療体制の充実など、地方などの要請を受け、入試システムとともにアドミッションポリシーも改善していく。入試制度について、一般推薦入試、地域枠推薦入試などの制度の見直しを行う予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 40：2023 年度入学者選抜要項

#### 4.2 学生の受け入れ

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

熊本大学医学部医学科の定員は 110 名だが、2021 年度入学試験では一般選抜(前期日程) 90 名、学校推薦型選抜一般枠 15 名、学校推薦型選抜地域枠 5 名であるのに対し、2022 年度入試、2023 年度入試では一般選抜(前期日程) 87 名、学校推薦型選抜一般枠 5 名、学校推薦型選抜地域枠 8 名、学校推薦型選抜熊本みらい医療枠 10 名となっている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 40：2023 年度入学者選抜要項

##### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

熊本大学医学部医学科の定員は 110 名だが、2021 年度入学試験では一般選抜(前期日程) 90 名、学校推薦型選抜一般枠 15 名、学校推薦型選抜地域枠 5 名であるのに対し、2022 年度入試、2023 年度入試では一般選抜(前期日程) 87 名、学校推薦型選抜一般枠 5 名、学校推薦型選抜地域枠 8 名、学校推薦型選抜熊本みらい医療枠 10 名となっている。今後も地域などの要望を踏まえ入学者定員などを検討していく。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 40：2023 年度入学者選抜要項

### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- (1) 学生委員長が学生から相談を受けるための専用携帯電話を常時所持して、きめ細やかな対応を行っていることは評価できる。
- (2) 保健センターによる支援に加えて、臨床医学教育研究センター教員の臨床心理士が支援を行っている。

##### 改善のための助言

- (3) 学生委員会によるカウンセリング制度を明文化し、組織的に対応できる体制を構築すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- (1) 学生委員長所持の専用携帯電話について

2022 年度で 21 件の相談がなされた。今後も学生委員長の専用携帯電話制度を継続する。

- (2) 臨床心理士の支援について

臨床医学教育研究センターには臨床心理士が在中し、学生委員会からのカウンセリング依頼に加え、学生にはガイダンスで臨床心理士への相談方法が周知されている。2022 年度はのべ 282 件の相談を実施した。今後も保健センター、臨床医学教育研究センターでの学習支援を継続する。

- (3) 学生委員会のカウンセリング制度について

学生委員会により、2019 年度入学生より、教授 2 名に対して 5-6 名の学生を割り付けるメンター制度が発足した。メンター教員は定期的な学生への連絡を行うこととされている。これは、4 年次の臨床実習開始まで維持される。2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、教員と学生の交流が制限される面があったが、メンター制度を充実させるため、メンターからの定期的な連絡などを励行するよう学生委員会より適宜周知している。一方、学生委員会の中では、メンター制度の見直し、より有効な学生カウンセリング制度の構築についての議論も行われている。また、毎年留年生、および修学状況調査にて講義・実習の出席が少ない学生について学生委員会委員による面談を定期的に行なっている。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 41：ガイダンス資料（学生委員会より）

資料 42：カウンセリング案件

資料 43：医学科会議資料(2022 年度新入生のメンター割当表)

資料 44：学生委員会留年者面談資料

資料 45：学生委員会修学状況調査での欠席多数者面談資料

#### 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

・学修上の問題を抱えている学生に対して、早い段階で支援できるよう、出席状況だけでなく、学修進度に関するさまざまな情報を把握してカウンセリングに活用することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2019 年度入学生より、教授 2 名に対して 5-6 名の学生を割り付けるメンター制度を発足した。メンター教員は定期的な学生への連絡を行うこととされている。また 2020 年度に、CBT の成績などを参照し、学修進捗の遅れている 6 年次学生を 20 名ほど選抜し、教員 1 名に 2, 3 名の学生を割り付け指導する「TEAM 100」制度を開始した。さらに 5 年次の学習進捗の遅れている学生に対しても教員を割り付け指導を開始している。2022 年度も 6 年次学生を対象に TEAM100 制度を継続した。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 39 : TEAM100 関連資料

## 4.4 学生の参加

### 基本的水準

#### 特記すべき点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- (1) 教育プログラムの策定を行う医学科カリキュラム委員会に低学年から高学年までの意見を反映できるよう学生の代表が正式な構成員として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。
- (2) 教育プログラムの管理を行う組織である医学科教育・教務委員会に、学生の代表が正式な構成員として参加して適切に議論に加わることを想定し、履行すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- (1) (2)委員会への参加について

2019 年度カリキュラム委員会学生委員は、5 年次 9 月より 6 年次 9 月までの任期である。また 2020 年度より医学科教育・教務委員会に 3 年次の学年代表が正式委員として参加している。さらに 2023 年 4 月より、教育・教務委員会に、1 年生から 6 年生まで（3 年生は除く）の各 1 名の学生をオブザーバーとして参加するべく、規則の改正を行った。今後カリキュラム委員会、教育評価委員会での低学年の参加を検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 29 : カリキュラム委員会細則

資料 30 : 教育・教務委員会細則

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

・熊本地震を機に組織されたボランティア活動団体が、大学の支援を得て活動を継続していることは評価できる。

### 改善のための示唆

・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後もボランティア活動の支援を継続する。

### 改善状況を示す根拠資料

## 5. 教員

### 概評

地域に固有の重大な問題に対応するために種々の寄附講座などを設置し、教員を採用していることは評価できる。

新規教員採用ポリシーを明示し、その中に教員の役割とカリキュラムにおける責任、教育、研究、診療の役割のバランスを示し、さらに採用後にその活動をモニタすることを含めるべきである。教員の活動における教育、研究、臨床の職務間のバランスに関する方針を医学部医学科として定め、モニタすべきである。教員の教育スキルを高めるための能力開発に関する方針を策定し、着実に履行し、その成果を検証することが今後の課題といえる。

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

・新規教員採用ポリシーを明示し、その中に教員の役割とカリキュラムにおける責任、教育、研究、診療の役割バランスを示し、さらに採用後にその活動をモニタすることを含めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

採用後の活動のモニターについては、2020年度より、月給制、年俸制等の雇用形態にかかわらず、全ての常勤教員を対象として業績評価を実施することとなり、教員の個人活動評価と重複するため、現行の教員個人活動評価（TUBAKI）は2019年度末をもって廃止することが2019年度第3回大学評価会議（2019年10月4日開催）にて承認された。2020年度より新しい教員業績評価制度が開始された。教員公募の文書において、教育研究診療の役割のバランスなどの提示を検討する。また採用後の活動のモニターについては新しい制度にて継続する。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 46：教員業績評価制度

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・地域に固有の重大な問題に対応するため「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」、「分子神経治療学寄附講座」、「脳血管障害先端医療寄附講座」を設置し、教員を採用していることは評価できる。

#### 改善のための示唆

なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「地域医療・総合診療実践学寄付講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」、「天草教育拠点」「河浦教育拠点」を継続している。

## 改善状況を示す根拠資料

### 5.2 教員の活動と能力開発

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- (1) 教員の活動における教育、研究、臨床の職務間のバランスに関する方針を医学部医学科として定め、モニタすべきである。
- (2) 教員の教育スキルを高めるための能力開発に関する方針を策定し、着実に履行し、その結果を検証すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- (1) 教員の活動における職務間のバランスについて

医学科での方針策定を検討する。

- (2) 教員の能力開発について

カリキュラム委員会の附属組織として、教員のFD活動を検討する「教員FD分科会」を設置、臨床医学教育研究センターとともにFDの計画を立案している。毎年開催している「医学教育FDワークショップ」については、2022年12月11日に教職員40名の参加を得て開催された。本学における能動的学習と形成的評価に関するFDがあまりなされていなかった背景を踏まえ、「能動的学習（アクティブラーニング）と効果的な形成的評価（フィードバック）を学ぼう」とテーマとした。セッション1では学外講師としてアクティブラーニングについての本邦の第一人者である関西医科大学の西屋克己先生をお招きしご講演いただいた。セッション2では本学内のいくつかの講座より、アクティブラーニングの取り組みについて、あるいは効果的なフィードバックについてご発表いただいた。セッション3ではグループワークとして「具体的なアクティブラーニングのプランの作成」「効果的な形成的評価（フィードバック）」について議論いただき、結果を発表していただいた。

また毎年、OSCEの評価者講習会、臨床実習入門コースやチュートリアル教員説明会を行なっている。さらにはシラバスのチェックにより適切なシラバスの記載の提言、授業参観制度により教員がお互いに講義を見学し意見を述べるシステムも行われている。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 22：2022年度熊本大学医学教育FDワークショップ報告書

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員と学生の比率は2018年度より大きな変化はない。また教員の昇進については、国立大学法人熊本大学教員選考規則、国立大学法人熊本大学教員選考基準に定められている。

##### 改善状況を示す根拠資料

## 6. 教育資源

### 評価

被災経験を活かして、学生、教職員一体となった大規模な防災訓練を行っていることは評価できる。医学研究で培われた学識を活用して、「最新医学セミナー」、「基礎演習」、「プレ柴三郎プログラム」といった教育カリキュラムを充実させていることも評価できる。

臨床実習において学生が十分な臨床経験ができるために患者数と疾患分類を十分確保すべきである。診療参加型臨床実習を実質化するために、学生が電子カルテに記載できる環境を整えることが今後の課題といえる。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・被災経験を活かして、学生、教職員一体となった大規模な防災訓練を行っていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

毎年の防災訓練を継続する。2022年度は2021年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から規模を縮小したが防災訓練を行った。

##### 改善状況を示す根拠資料

資料 47：消防・防災訓練資料

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

熊本大学では、継続して教育資源の拡充を行なっている。

##### 改善状況を示す根拠資料

### 6.2 臨床トレーニングの資源

#### 基本的水準



### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・臨床実習において学生が十分な臨床経験ができるために患者数と疾患分類を十分確保すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会の附属組織として、新しい臨床実習案を検討する「臨床実習 WG」が組織された。また IR 部門では、臨床実習中の学生がどのような症例を経験しているかを把握するための「担当症例病名登録」を管理し、その内容を教育医長会議にて共有している。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 48：担当症例病名登録

### 質的向上の水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省より「感染症医療人材養成事業」の援助を得て、2021 年度に重症患者シミュレーター、人工呼吸器、ECMO、鼻咽頭ぬぐいシミュレーターなどの導入がなされた。これらのシミュレーターなどは感染症教育、集中治療教育に使用されている。また 2022 年度は大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における補助金を得て、救急、災害医療に関する VR 教材の作成を行い、臨床実習にて視聴させている。これにより実体験が難しい災害医療の実習などを行うことができる。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 49：感染症医療人材養成事業導入機器リスト

## 6.3 情報通信技術

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学全体においては、「国立大学法人熊本大学情報システム運用基本規則」「国立大学法人熊本大学情報システム利用規則」に従って情報、運用、利用を行っている。学生教職員は、学内での無線 Wifi、インターネット接続、学内 e-ラーニングシステム (moodle) への接続利用が可能である。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 50：国立大学法人熊本大学情報システム運用基本規則

資料 51：国立大学法人熊本大学情報システム利用規則

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

## 改善のための示唆

- (1) 診療参加型臨床実習を実質化するために、学生が電子カルテに記載できる環境を整えることが臨まれる。
- (2) 臨床実習において個々の学生への連絡手段をさらに充実することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

### (1) 学生の電子カルテ記載について

カリキュラム委員会の附属組織として、新しい臨床実習案を検討する「臨床実習 WG」が組織され、議論を行なっている。学生へのカルテ記載能力向上のため、各講座のクリニカルクラークシップにて行われている模擬カルテ記載のためのフォーマットなどは、クリニカルクラークシップの手引きに掲載し、各診療科間で情報共有している。2021 年度より、学生のカルテ記載能力の向上のため、臨床実習前のプレ臨床実習で臨床推論グループワークを行っている。そこで、参加学生にシナリオ症例のカルテ作成を課題とした。さらに 2022 年度より、電子カルテで使用するパソコン端末の共有フォルダに、医学科学生カルテ記載のフォームを掲載している。各講座での指導に従いカルテフォームを使用できる。このフォームは電子カルテと同じ端末にあるので、学生が記載した事項を指導医等が電子カルテに反映させることが容易となる。今後臨床実習 WG で学生カルテ記載教育を検討する。またクリニカルクラークシップにおけるカルテ記載教育を進める。電子カルテには学生が記載し、指導教員が確認する機能は実装されているが、現時点では学生の記載能力に疑義が持たれて、この機能の利用を中止している。カルテ記載実習での学生のカルテ記載能力向上が図られた後には、前記機能の利用再開を大学病院に検討依頼を行い、医学科と大学病院で議論することとする。加えて、指導教員によるカルテ記載許可制の導入を考える。また病棟で他職種にカルテ記載の許可学生であることを示すために名札に印をつけることについても検討を行う。

### (2) 学生との連絡手段について

臨床実習担当診療科とは、学生の携帯電話番号やメールアドレスの共有を行っている。熊本大学学内 e-ラーニングシステムである moodle を活用して学生への連絡をより確実にしている。また地域医療実習では希望者に iPad の貸し出しを行っている。学生への緊急連絡手段の検討を行う。臨床実習において、教員と学生の間

ではメール、あるいは学内 e-ラーニングシステムでの連絡手段が確保されている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 24 : 2022-2023 特別臨床実習の手引き

### 6.4 医学研究と学識

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点 (特色)

・医学研究で培われた学識を活用して、「最新医学セミナー」、「基礎演習」、「プレ柴三郎プログラム」といった教育カリキュラムを充実させていることは評価できる。

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

最新医学セミナー、基礎演習、プレ柴三郎プログラムの継続を図る。2022 年度は基礎演習にて新型コロナウイルス感染拡大前と同様に研究活動がなされ、発表会も予定通り行われた。

#### 改善状況を示す根拠資料

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点 (特色)

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学や研究センターでの科学的手法による研究の実践や、社会医学講座や臨床系医学講座での臨床研究の実践による科学的根拠に基づく医学の学修がなされている。

1 年次学生を対象としたグループ単位で様々な研究室を訪問し、研究内容や実験機器の紹介を受けるラボツアーを継続実施している。また、希望する学生は、高校～大学～大学院のシームレスな一貫教育と卒後臨床研修と大学院での研究の両立を目指した「柴三郎プログラム」の一つである「プレ柴三郎コース」へ入学し、大学院の講義を先取り履修、所属研究室での研究活動を行っている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 52 : ラボツアー関連資料

資料 53 : プレ柴三郎プログラム記録

## 6.5 教育専門家

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・教育専門家の学識と経験を組織的に活かす仕組みを検討すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育専門家が教育・教務委員会や医学科会議など、医学教育に関する会議体に参加し意見を述べる機会を有している。医学科以外の教育専門家（熊本大学大学教育統括管理運営機構教員）に医学教育評価委員会の委員として参加してもらい、医学教育の改善について提言を行ってもらっている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 30：教育・教務委員会細則

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・教職員の能力向上のために、FD などを通じて教育専門家をさらに活用することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会の附属組織として、教員の FD 活動を検討する「教員 FD 分科会」を設置し、議論を開始した。この分科会には医学教育専門の教員が参加している。2022 年度はアクティブラーニング、フィードバックに関する FD ワークショップを開催したが、医学教育専門の教員が FD ワークショップの企画運営に参画している。また OSCE の評価者講習会、臨床実習入門コースやチュートリアル教員説明会も医学教育専門の教員が企画運営している。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 22：2022 年度熊本大学医学教育 FD ワークショップ報告書

資料 54：OSCE 評価者説明会資料

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1) 経済的な支援を行いながら、海外での研究を推奨する仕組みが導入されている。

#### **改善のための助言**

(2) 国内外の他教育期間との臨床実習の交流を検討すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

(1) 海外での研究支援について

2022年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、基礎演習での海外での実習は中止となった。今後、新型コロナウイルス感染拡大が収束したのちに、基礎演習での海外での研究派遣を継続する。

(2) 臨床実習の交流について

現時点では学外協力病院での臨床実習が行われているが、2022年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ほかの教育機関との臨床実習の交流は縮小せざるを得なかった。今後新型コロナウイルス感染拡大の収束に伴い、学外医療機関との協力を得つつ臨床実習を進めていく予定である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

資料 55：学外医学教育協力施設一覧

#### **質的向上のための水準**

特記すべき良い点（特色）

・なし

#### **改善のための示唆**

・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

医学科の教職員の交流について、大学間交流協定のある中国山東大学への派遣の際には、学内予算からの援助がなされる。そのほか様々な援助基金やプレ柴三郎コース運営資金からも国内外の共同研究への支援を行っている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

## 7. プログラム評価

### 概評

学外委員を加えた医学教育評価委員会を設置しているが、IR を含むその活動実績はいまだに十分とは言えない。評価の統轄部門として医学教育評価委員会の役割と権限を明確にした上で、教育プログラムの改善に必要な情報の集積と解析を体系的に行い、問題点と課題点を明らかにして責任ある委員会等に提言する仕組みを調整することが今後の課題といえる。

### 7.1 プログラムのモニタ評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- (1) プログラムを評価するために、医学科 IR 機能と医学教育評価委員会の役割と権限を明示すべきである。
- (2) カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定について、収集した情報を解析し、委員会の検討内容を確実に記録するなどして評価活動の振り返りを行い、PDCA サイクルを回すべきである。
- (3) 医学科の IR 機能の運営方針と規約を定めるべきである。
- (4) 教育成果に沿った形での学生の進捗状況をモニタし、教育プログラムの改善に役立つ評価システムを構築すべきである。
- (5) 知識だけでなく、技能、態度の教育の観点からも、教育プログラムの課題を特定すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- (1) 医学科 IR 機能と医学教育評価委員会の役割と権限の明示について

医学教育評価委員会の役割と権限について、「医学教育評価委員会細則」にその役割と権限を記載している。また、医学教育評価委員会の委員長を医学科長から医学部長に変更し、委員会の独立性を高めた。カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IR の活動について議論する「IR 分科会」を設置し議論を行っている。2022 年度「IR 部門」では、各講座実施の試験結果、統合卒業試験の信頼性と妥当性、各講座試験・CBT・統合卒業試験・国家試験の関連の解析、各学年向けのカリキュラムに関するアンケート調査の結果、卒後 3 年目の本学出身後期修練医のアンケート調査の結果を収集・解析し、医学教育評価委員会に報告した。

- (2) PDCA サイクルについて

委員会の検討内容については、議事録、議事要録を作成し記録している。IR 部門では、学生の進捗（6 年間を通しての学士試験の成績など）を集積している。また学修の進捗やその他の情報を一元化し概観できるような学生毎のデータベースを構築している。また委員会の活動内容の議事記録を継続して作成する。

- (3) IR 機能の運営方針と規約について

熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター規則の第 3 条第 4 項にその業務として『医療人教育に必要なデータ収集及びその解析に関すること。』が記載されている。今後臨床医学教育研究センターの IR 機能の運営方針を定めるべく協議する。

#### (4) 学生の進捗に基づく教育プログラムの改善について

IR 部門では、学生の進捗（6年間を通しての学士試験の成績など）を集積している。また、各学年に学修状況と学修成果の獲得度の自己評価、及びカリキュラムへの満足度などの項目を含むアンケート調査を実施している。また現在学生毎の学修成績やその他の情報を一元化し概観できるようなデータベースを構築中である。学年ごとに学修成績を解析し、学生の進捗状況を把握する。さらに、カリキュラムに関する学生の意見を引き続き聴取し、改善すべき課題を抽出する。

#### (5) 技能、態度の教育の観点からの教育プログラムの課題の特定について

教育医長会議などで報告される臨床実習中の学生の不適切な態度などを踏まえ、4年次のプレ臨床実習において臨床実習での適切な態度に関するグループワーク実習を行っている。また、1年次「行動科学 I」にて医師のプロフェッショナリズムについての講義、2年次「医学英語」では21世紀医師憲章の輪読、4年次「生命倫理学」などで医師の望ましい行動などについて講義を行っている。技能については、臨床実習前に臨床実習入門として、4週間の集中実習を行っている。普段の大学教育活動の中での学生の不適切な態度についての情報（担当講座や教職員、大学病院関係者からの苦情など）を医学科教務および IR で集約する。態度教育について、臨床実習における学生の態度に関するアンケートなどを計画し、課題を特定する予定である。技能については、獲得度の自己評価を学年毎のアンケートにて追跡し、また、臨床実習前 OSCE や臨床実習後 OSCE のデータを IR で集約する。さらに教育医長会議などで各診療科と情報共有し、技能教育の課題を把握する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 3：カリキュラム委員会議事記録

資料 25：プレ臨床実習概要

資料 32：医学教育評価委員会細則

資料 56：医学教育評価委員会議事記録

資料 57：教育・教務委員会議事記録

資料 58：熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター規則

資料 59：学生ごとの進捗データ

資料 60：学生へのガイダンスアンケート集計

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・社会的責任に関する評価の指標を定めて、卒業生の実績調査も含め、情報収集と解析を行うことが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度に、2019年本学卒業の後期修練医にアンケート調査を実施した。その内容は本学での教育に対する意見聴取、初期研修目標の達成度の自己評価などである。今後は卒業生が勤務している医療機関への調査を

計画する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 11：卒業 3 年目アンケート調査結果

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・より多くの教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、解析して提言できる体制を構築すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員からは、医学科会議、教育医長会議などでフィードバックを受けている。学生からは、カリキュラム委員会、教育・教務委員会の学生委員からの意見聴取、また「学長・医学部長との懇談会」での学生意見聴取の仕組みがある。この懇談会参加学生は、事前に全学生対象にアンケート調査を実施し、その結果・学生意見を懇談会で報告している。2022 年度の懇談会では、臨床研究棟への出入り制限の緩和、6 年次の統合卒業試験・Post CC OSCE の開催時期などについての提言がなされ、臨床研究棟への出入り緩和、2023 年度の 6 年次学生の試験日程の変更などに反映された。さらに、各学年にアンケート調査を実施し、学修状況と技能の獲得度に対する自己評価のデータ、およびカリキュラムに関する意見を集積している。今後も教育医長会議やカリキュラム委員会、教育・教務委員会、学長・医学部長との懇談会などでの意見聴取を維持する。さらに学生より直接意見を求める仕組みの構築を検討する。これらの提言を IR にてまとめ、医学教育評価委員会に提示する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 3：カリキュラム委員会議事記録

資料 4：教育医長会議議事記録

資料 6：「医学科学生代表と医学部長、医学科長、懇談会」記録

資料 57：教育・教務委員会議事記録

資料 60：学生へのガイダンスアンケート集計

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・なし



### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020年度の医学教育評価委員会からの提言の中に多職種連携教育の必要性を指摘する提言があり、2021年度、2022年度は、医学科、保健学科、薬学部での多職種連携グループワークを実施した。今後も学生教職員からのフィードバック、それを統合した医学教育評価委員会からの提言などに基づき、プログラムの開発を行う予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 61：2022 多職種連携プログラム実施要項

## 7.3 学生と卒業生の実績

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

・教育成果に沿って学生と卒業生の実績に関する情報を体系的に収集して、使命と期待される教育成果、カリキュラム、資源の提供の観点から分析を行うべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IRにて学生の成績と学修成果の獲得度の自己評価のデータを収集解析し、分析を行っている。2022年度は、各講座実施の試験結果、統合卒業試験の信頼性と妥当性、各講座試験・CBT・統合卒業試験・国家試験の関連の解析、各学年向けのカリキュラムに関するアンケート調査の結果を収集・解析し医学教育評価委員会へ報告している。また卒後3年目の本学出身後期修練医を対象にアンケート調査を実施し、初期研修終了時点という視点から本学の卒前教育に対する意見を聴取した。今後卒業生の実績の情報を得るべく医療機関へのアンケート調査の実施を検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 11：卒後3年目アンケート調査結果

資料 56：医学教育評価委員会議事記録

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

・個々の学生に関するさまざまな情報を一元的に管理し、共有する体制の設備が望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教務や各講座などに集まる学生情報を IR に集中させ、集積している。学修の進捗やその他の情報を一元化し概観できるような学生毎のデータベースを構築中である。

#### 改善状況を示す根拠資料

#### 7.4 教育の関係者の関与

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2018 年度からは、医学教育評価委員会を新たに設置し、医学部長、基礎及び臨床の講座の教授の代表、各臨床系講座の教育担当で編成される教育医長会議の代表、熊本大学病院総合臨床研修センター専任教員等の熊本大学教員に加えて、学外臨床実習受け入れ病院代表、熊本県医療政策課職員、熊本大学大学教育統括管理運営機構教員、熊本大学医学部医学科学生も正規の構成委員として参加している。医学教育評価委員会によるデータ収集と解析は、臨床医学教育研究センターの教職員が IR 担当の教職員として任務にあたっている。また、熊本大学大学教育統括管理運営機構・情報分析室と協同してデータの収集と解析を行っている。

#### 改善状況を示す根拠資料

##### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- (1) 医学教育評価委員会の評価結果・提言、それによって行われた改善事項を閲覧できるようにすることが望まれる。
- (2) 広く医学教育にかかる関係者から、卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

##### (1) 評価結果の閲覧について

現在は医学科会議議事要録への記載にとどまっている。医学教育評価委員会からの提言を医学科のホームページに記載することを検討する。

(2) 広い教育関係者からのフィードバックについて

医学教育評価委員会では、学外実習施設や初期研修施設の教職員や熊本大学の他学部の教員も委員として参加いただき、卒業生やカリキュラムについてのフィードバックを頂いている。卒業生の実績の情報を得るべく卒業生が勤務する医療機関へのアンケート調査を実施している。

**改善状況を示す根拠資料**

資料 56：医学教育評価委員会議事記録

## 8. 統轄および管理運営

### 概評

統轄および管理運営については大学内での位置付けを含めて規定に基づき実施されている。熊本県との緊密な連携が行われている。自治体と協働して「地域医療・総合実践学寄附講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」が設置され、「早期臨床体験実習」、「地域医療実習」などをおして連携していることは評価できる。

### 8.1 統轄

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

熊本大学は、国立大学法人法に基づく国立大学法人熊本大学が設置した大学であり、国立大学法人熊本大学法人基本規則の定めるところにより、役員及び職員を置き、組織を構成し、業務を行っている。医学部には、医学部教授会が置かれ、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものと規定されている。更に学部長がつかさどる教育研究に関する事項（学生の除籍及び懲戒に関する事項、その他学部の教育研究に関する重要事項）について審議し、学長及び学部長の求めに応じ意見を述べることができる。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 62：国立大学法人熊本大学法人基本規則

資料 63：熊本大学医学部教授会規則

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科会議の下に医学部医学科教育・教務委員会、学生委員会及び入試委員会が設置されている。また、医学部医学科教育・教務委員会の下に医学科カリキュラム委員会を設置している。さらに、評価・改善のために、医学教育評価委員会が設置されている。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 64：熊本大学医学科会議要項

資料 30：教育・教務委員会細則

資料 29：カリキュラム委員会細則

資料 32：医学教育評価委員会細則

## 8.2 教学のリーダーシップ

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

熊本大学の学長は、法人の代表として、その業務を総理するとともに、校務を司り、所属職員を統督して、経営責任者と教学責任者の職務を同時に担っている。

医学部長は生命科学研究部長を併任しているが、医学部における管理運営に関する業務を統括し、所属職員を監督する。また、医学部における評価、人事、予算、施設、その他に関する業務を行う。また熊本大学大学院生命科学研究部教授会の議長を務めている。

医学科長は熊本大学医学部医学科での教学に関する重要事項、すなわち教育課程の編成及び授業、学生の修学指導、入学、退学、転学、休学、復学、転部及び卒業、科目等履修生に関することを審議・議決する機関である医学科会議を議長として統括している

医学部医学科の教学関係に係る重要事項は原則、医学科教育・教務委員会を経て、医学科長が議長である医学科会議にて審議し、医学部長が議長である医学部運営会議による承認のながれによる意思決定を行っている。

### 改善状況を示す根拠資料

資料 62：国立大学法人熊本大学法人基本規則

資料 63：熊本大学医学部教授会規則

資料 30：教育・教務委員会細則

資料 64：熊本大学医学科会議要項

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための示唆

・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学長の選考は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者のうちから、学長選考会議が定める基準により行うものとしている。また、学長選考会議は、文部科学大臣に対し学長解任の申出ること、学長の業績評価に関することも任務としている。

医学部長は、医学部長選挙により複数の候補者が選出され、学長により決定される。学長は、部局長等が業務の遂行が難しい場合、職務上の義務違反があるとき、部局長等に適さないと認めるときは、当該部局長等を解任することができる。

医学科長は医学部長により指名される。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 62：国立大学法人熊本大学法人基本規則

資料65：国立大学法人熊本大学部局長等候補者選考規則

資料66：熊本大学大学院医学教育部長（医学部長）候補者推薦要項

資料67：熊本大学医学科長候補者選考内規

## 8.3 教育予算と資源配分

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

## 改善のための助言

・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内の予算配分は、学長が定める熊本大学予算編成の基本方針に基づき、毎年各予算責任者（医学部であれば医学部長）に予算が配分される。医学系・医学科の予算配分（学部共通経費、大学院経費、分野運営経費、事項指定経費等）は、予算配分検討委員会で配分額を審議し、生命科学研究部運営会議及び医学系研究部会議の議を経て決定される。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 68：熊本大学予算編成の基本方針

資料 69：国立大学法人熊本大学予算規則

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育資源の配分は、予算配分検討委員会で配分額を審議し、生命科学研究部運営会議及び医学系研究部会議の議を経て決定される。

#### 改善状況を示す根拠資料

### 8.4 事務と運営

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムと関連の活動を支援するため、生命科学研究部（医学系）に事務を置き、事務課長の統制の下、生命科学研究系事務課医学事務チーム教務担当を配置し、学生の入学から卒業までの修学・生活支援を行っている。

#### 改善状況を示す根拠資料

資料 70：国立大学法人熊本大学事務組織規則

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

国立大学法人熊本大学として、国立大学法人法第 31 条の 2 の規定に基づき、中期目標期間終了時に国立大学法人評価委員会が行う「法人評価」（2016 年度実施）、大学の教育研究水準の向上に資するため大学が自ら行う点検・評価「自己評価」（2018 年度）、学校教育法第 109 条第 2 項に規定の認証評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が大学等の教育研究活動等の質の向上を目的として行う「大学機関別認証評価」（2021 年度実施）を受審し、その結果を公表している。「大学機関別認証評価」においては、内部質保証の体制が整備されていることを重点的に確認が行われた。そこで教育の内部質保証に係る体制及び実施手順を明確にするため、全学教育会議の下にカリキュラム評価委員会を設置するとともに、「教育の内部質保証に関する方針・手順」「教育の内部質保証に関する方針・手順に基づく各評価の実施のガイドライン」を定め、これらの規定に定める各評価を 2021 年度から毎年度実施することになり、各部局で自己点検・評価（学位プログラム評価）を実施することとなった。また 2022 年度の大学設置基準等の改正からも、内部質保証を通じた教育研究活動の不断の見直しが求められるており、2022 年度も内部質保証の評価を実施した。

## 改善状況を示す根拠資料

資料 71：大学機関別認証評価 評価報告書

資料 72：2022 年度内部質保証

## 8.5 保健医療部との交流

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・熊本県との緊密な連携が行われている。

#### 改善のための助言

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後も熊本県との連携を維持していく。

## 改善状況を示す根拠資料

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・自治体と協働して「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」が設置され、「早期臨床体験実習」、「地域医療実習」などをとおして連携しているところは評価できる。

#### 改善のための示唆

- ・なし



#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後の熊本県と協力し、地域医療教育を行う。2019年度には「天草教育拠点」が設置された。

#### 改善状況を示す根拠資料

## 9. 継続的改良

### 概評

熊本大学は 2015 年に大学評価・学位授与機構（現 大学改革支援・学位授与機構）による機関別認証評価を受けた。また、今回の医学教育分野別評価によって医学教育の自己点検を行い、第三者評価を受け、継続的に改良を行っている。学修成果基盤型教育への転換を目指し、医学教育改革の充実を推進している。今後、IR 機能の充実を図り、継続的な改良を進めることが課題といえる。

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

(1) 2014 年度から新カリキュラムを導入するなど、教育プログラムの改善に取り組んでいる。

#### 改善のための助言

(2) 医学教育評価委員会によるプログラム評価を活用して PDCA サイクルをさらに進め、継続的に収集したデータや学生の学修成果に基づく教育プログラム改善を実施すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

(1) 教育プログラムの改善について

2022 年度は令和 6 年度入学生より適応を目標とした新しいカリキュラムの作成を、「臨床実習 WG」「臨床実習前教育 WG」にて行っている。当初は令和 5 年度入学生からの新カリキュラム施行を予定していたが、医学教育モデルコアカリキュラムの改訂があり、新しいカリキュラムと新モデルコアカリキュラムとの整合性を確認・調整作業を行ったことと、新モデルコアカリキュラム適応開始に合わせるために令和 6 年度入学生からの適応を計画している。

(2) PDCA サイクルの推進と継続した教育プログラム改善について

IR 組織と医学教育評価委員会を継続している。今後 IR の役割と権限を定める規則の策定や運営方針を検討し、その機能強化を図る。また医学教育評価委員会での教育プログラムの評価と改善策の策定を継続する。

#### 改善状況を示す根拠資料

### 質的向上のための水準

・評価実施なし